



# 都市農業振興の現状と展望

## Workshop Report

井之口農園（東京都練馬区）  
見学会・ワークショップ記録

実施日： 2015年 5月20日  
井之口農園 井之口喜實夫 + 井之口勇喜夫  
協力 J A 東京あおば

# ワークショップの概要

東北復興のまちづくり～農からの地域創生～

学科目担任 早田幸・加藤基樹

## (実施主体)

JA 共済連と早稲田大学が共同で開講している寄附講座が4年目を迎えました。早稲田大学(総長 鎌田薫)は、JA 共済連(全国共済農業協同組合連合会・代表理事理事長 勝瑞 保)の寄附講座として、井之口農園(代表 井之口實喜夫)にて、JA 東京あおば(東京あおば農業協同組合・代表理事組合長 榎本高一)の協力により、都市農業振興、農からの地域創生を考えるプログラムを実施しました。

## (経緯)

JA 共済連による寄附講座は2011年より早大平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)に設置された全学共通科目として開催されており、「震災復興」をテーマに開催されてきました。プログラムにより岩手県田野畑村、宮城県気仙沼市への訪問、協同探求の交流学习、東京での産直フェアなどに取り組んできました。

4年目となる今年は、科目名「JA 共済寄附講座 東北復興のまちづくり～農からの地域創生～」として4月より開講しています(科目担当:早田幸教授・加藤基樹助教)。学生募集定員40名のところ95名の応募があるなど、学生の関心の高さがうかがえます。従来からの継続地に加え、福島県いわき市のプログラムも加え、より充実した講座をめざしています。

## (都市農業振興をテーマに)

平成27年4月16日、都市農業振興基本法が国会で成立しました。それを受けて農村のみならず都市部において社会的な環境整備を進めていくかは、日本の最重要課題であると考えています。

5月20日(水)17:00より、井之口農園(練馬区高野台 3-36-19)にて都市農業を考えるワークショップを開催しました。早稲田大学の学生 40 名が訪れ、農園の視察、野菜の試食、農産品をつうじて人々につながりを生み出し、新たな社会的価値を創出する農業振興のあり方を今後の日本の重要課題として、学生、関連団体、地域社会や政策担当者といかに社会的アクションとして展開するかについて考えました。

## (実施スケジュール)

### 集合時間・場所

5月20日(水)16:55 集合(駅改札口)  
西武池袋線「石神井公園」駅

17:10 井之口農園(練馬区高野台 3-36-19)

見学(20分)  
講義(20分)  
質疑(15分)  
試食(15分)  
お礼・ごあいさつ(10分)

## (都市農業振興の論点は何か)

都市農業と農地は、多様な役割を果たしています。消費地に近く新鮮な農産物を供給するほか、災害時の防災空間の確保、ヒートアイランド現象の緩和、農業体験、環境教育、都市住民の農への理解、農のある暮らしへの関心を高める機会づくりなどに重要な役割を果たしています。

井之口農園では、農を通じた食育・環境教育、復興支援に取り組んでいます。きゃべつ生産と江戸東京伝統野菜「早稲田みょうが」の復刻栽培をしています。井之口農園のきゃべつは、農林水産大臣賞など数多くの章を受賞しています。

早稲田みょうがは、江戸時代に新宿区界隈で生産された伝統野菜の品種で、魚料理の「つまもの」として食膳に使用されてきました。古江戸川柳に『鎌倉の波に早稲田をつけあわせ』（鎌倉沖へ黒潮に乗ってきたかつおに早稲田みょうがを添えて食べると江戸好みの味覚の極味という意味）」とあるとおり、日本のハーブ（香味）文化です。井之口農園では、震災後、東北の沿岸部の水産・加工品を支援する復興支援活動をしてきました。気仙沼市のかつおと早稲田みょうがを食べ合わせ、江戸の食文化を楽しむイベント『早稲田かつお祭り』を毎年秋3週間、早稲田大学周辺商店連合会（会長 北上昌夫）の主催でレストラン、居酒屋など飲食店で開催してきました。2015年秋も継続して開催される予定です。

さらに2014年から、都市環境のミチゲーション（環境負荷軽減）、原風景再生の視点から、新宿区の希少都市内空地で早稲田みょうがの定植に、新宿区榎町地区協議会と協働で取り組んでいます。現在までに、早稲田大学、私立早稲田中学・高等学校、新宿区立鶴巻小学校、新宿区立早稲田小学校、新宿区立江戸川小学校、天祖神社（早稲田鶴巻町 53）などに定植してきました。学校では地域団体と協働し、江戸東京伝統野菜研究会（代表 大竹道茂）の協力得を得て、新しい環境教育、食育を展開していきます。こうした都市農業振興の重要性や今後の可能性について考えてゆきます。

#### （ワークショップの狙いとしたこと）

早稲田大学は13学部からなる総合大学で、農学部はありませんが、農業経済、まちづくりなどに関連した研究室や講義が多いのが特徴です。学生は6割が首都圏出身者ですが、地域創生に関心をもつ学生が近年増えており、農山漁村の実情を知ってもらい、地域のみならず東京や日本全体すべきことを考えてもらうことが狙いです。

具体的には、東北の復興、農地の復旧、都市農業振興、地域性のある伝統野菜・農法の保全、地域コミュニティ全体の復興、助け合いなどの地域活動、豊かな自然環境の保全、生産者の新たなチャレンジ（事業・雇用の創出、若者・女性の機会）、都市農村の交流・連携、食育、農畜産物の販売促進、ブランド化、支援のあり方の現状の取材と今後のあり方をテーマに現状視察、お話をうかがい、意見交換をしました。

#### （今後へ向けて）

2015年9～12月に東京において、連続ミニ・イベント（数回）をおこなう予定です。東北各地の特産品（野菜、果物、乳製品など）を試食しながらワークショップ方式で農や食を語るイベントで、そこでの学生、参加者の反応をふまえて、考察、学生の視点から提案を作成、結果を生産地にフィードバックします。12月までに報告書にまとめ、各地区の取り組みをわかりやすい「物語」にして語るシンポジウムの開催を予定しています。

## 実施風景



開催挨拶（井之口喜實夫氏）



キャベツと早稲田みょうがピクルスの試食